【授業科目】小児看護学実習　Child　Nursing　Practicum

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
増田 由美、別所 史子、馬場 佳理	３年次 後　期	必　修	２	９０	実　習	あり	巻末 記載	否

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／小児看護学では成長発達過程にある子どもを一人の人間としてとらえ、その子どもの最良の健康状態が維持できるように、子どもと家族を支援するための基礎的能力と態度を修得できることをめざす。そのため、保育所で過ごす健康な小児の日常生活を学習し、入院生活を送る子どもの権利、発達段階、健康状態、家族の状況から必要な支援を考え、実施・評価の過程を展開する。これらを通して小児看護者としての倫理的感受性を養い、専門職者としての役割を考え、自己を振り返りつつ今後の課題を明らかにする。 課題に対するフィードバック方法／個人の準備学習や実習記録を通して知識や技術、経験したことを含めアセスメントの確認を行い、子どもと家族に必要な看護支援を導き出せるよう個別に指導する。加えて、カンファレンスを通してグループ内で共有し、多角的に考察できるよう助言する。
実務経験に関する 授業内容	看護師として小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもと家族への支援の実際を専門的な根拠を基に、既習の知識を活用し個別性を尊重しながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	1. 子どもの成長発達が理解できる。 2. 子どもの健康状態が子どもと家族に及ぼす影響を述べることができる。 3. 健康状態の回復や健やかな成長発達を支援するために援助に必要な情報を収集・アセスメントし、看護問題を明らかにして子どもと家族のニーズに応じたケアの計画、実施・評価できる。 4. 小児を対象とする看護職としての倫理的感受性を養い、小児看護の役割が理解できる。 5. 主体的かつ真摯な態度で実習に取り組み、子どもや家族とのかかわりを通して自己を振り返ると共に今後の課題について記述できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	※詳細については、実習要項を参照してください。
授業計画	・実習期間は、令和７年９月８日～令和８年２月２７日のうち１０日間 ・実習時間は、原則として、８：３０～１６：３０ ※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時の配布資料を参照してください。 増田 別所 馬場
評価方法 評価基準	※詳細については、実習要項を参照してください。
学生への 助言等	・感染リスクの高い子どもを対象とした実習であることを認識し、各自の健康管理と感染予防対策に細心の注意を払ってください。 ・十分に事前・事後学習を行い、既習の講義資料、課題などを活用して学内で学んだ知識と技術を実習で統合できるように準備してください。 ・子どもにとっての治療やケアは、想像する以上に恐怖心やストレスが大きい出来事です。既習の内容を振り返り、子どもの不安やストレスを軽減し、子どもが主体性を発揮できる看護援助を考え、実践してください。 ・子どもと家族に安全にケアが実践できるよう、小児看護に関する技術の理解や動画視聴などでイメージ化を進め実習に臨んでください。